

大阪国際がんセンター 《基本情報》

基本情報	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	収集期間	定義	備考
<b>【入院】</b>							
稼動病床数	500	500	500	床	平成28年度		実際に使用している入院ベッド数です。
延べ患者数	153,439	162,928	158,487	人	平成28年度		入院患者数の1年間の累計です。
1日平均入院患者数	420	445	434	人	平成28年度	延べ患者数/365	
新入院患者数	10,791	11,900	12,098	人	平成28年度		1年間に入院した患者さんの数です。
退院患者数	10,730	11,890	12,222	人	平成28年度	期間中の退院患者数	1年間に退院した患者さんの数です。
年齢階層別退院患者数(※1)					平成28年度	※退院時点(又は入院時点)の年令で集計する。	退院患者の年齢の特徴を示します。
主要疾患別患者数(※2)					平成28年度	※原則としてICD3桁分類の上位20疾患とする	主にどのような病気を扱う病院かを示しています。
疾病分類別患者数(※3)					平成28年度		
病床利用率	84.1	89.0	86.8	%	平成28年度		病床数に対して、どれだけの方が利用したかを表し、1年間平均した病床の利用度を示します。
平均在院日数	14.3	13.7	13.0	日	平成28年度	延べ患者数/(新入院患者数+退院患者数)÷2	急性疾患を取り扱うのか、慢性疾患を取り扱うのか、病院の特徴を示します。
病床回転率	21.5	23.8	24.1	回	平成28年度	(病床利用率/100)×365/平均在院日数	空きベッドの数も考慮して計算された、入院ベッドの利用効率を示します。急性疾患あるいは慢性疾患という特徴を示します。
入院外来比率	1:1.7	1:1.6	1:1.6	%	平成28年度	延べ外来患者数/延べ入院患者数×100	入院加療を中心とする病院か、外来診療を中心とする病院かという特徴を示します。
退院患者中の褥創(Ⅱ度以上)の院内発生率	0.34	0.37	0.18	%	平成28年度	NPUAP分類においてStageⅡもしくはDESIGN評価表においてd2以上の褥瘡を有する患者/延べ入院患者数×100	
退院サマリー完成率	93.7	94.0	95.0	%	平成28年度	担当医が2週間以内にサマリーを記載した件数/退院した患者数×100	入院中の経過など、医療内容のエッセンスの記録(退院サマリー)を2週間以内に記載した割合を示します。
<b>【外来】</b>							
新外来患者数	6,994	7,452	6,822	人	平成28年度	初診料を算定した外来患者数+他科の初診患者数(入院中の外来初診を含む)	
延べ外来患者数	259,257	264,025	257,421	人	平成28年度	初診料と外来診療料を算定した延べ患者数	
平均通院回数	37.1	35.4	37.7	回	平成28年度	延べ外来患者数/新外来患者数	
1日平均外来患者数	1,063	1,087	1,068	人	平成28年度	延べ患者数/診療日数	
紹介率	98.1	98.7	100.3	%	平成28年度		外来患者さんのうち、紹介されてこられる方の割合です。普段のかかりつけというような一次医療が中心か、専門的な病院かを示します。
逆紹介率	181.2	179.8	189.5	%	平成28年度		逆にこの病院から他病院への紹介の割合です。
救急車搬送患者数	264	313	256	人	平成28年度	・救急車で搬送された全ての患者で再診患者、外泊患者等を含む。 ・医療機関に所属する救急自動車(ドクターカー:自院、他院を含む。)で搬送された患者も含む。	
初診予約率	92.7	96.4	97.1	%	平成28年度	予約があった初診患者数/初診患者数×100	外来の予約制がどの程度浸透しているかを示します。

大阪国際がんセンター  
大阪国際がんセンター 《基本情報》

基本情報	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	収集期間	定義	備考
<b>【死亡患者】</b>							
死亡退院数	164	168	152	人	平成28年度		この病院での一年間の死亡の数です。
粗死亡率	1.53	1.41	1.24	%	平成28年度	死亡患者数/退院患者数×100	この病院に入院した患者さんの死亡の割合です。高度な医療を提供する病院では重症の患者さんを取り扱うことも多いので、この数字は高くなります。
精死亡率	1.36	1.27	1.13	%	平成28年度	全死亡患者数－入院後48時間以内死亡/退院患者数×100	入院して48時間以内の死亡は、病院内での診療を反映しないことも多いので、この死亡を除いた上での死亡率です。しかしながら、上記と同様に、高度な医療を提供する病院では重症の患者さんが増え、死亡率が高くなる傾向もあるため、必ずしも病院の診療レベルは反映しません。
剖検数	20	19	13	件	平成28年度	死亡退院患者のうち病理解剖実施件数	
剖検率	12.2	11.3	8.6	%	平成28年度	剖検数/死亡退院患者数×100	「剖検」とは病理学的な解剖のことで、死亡した患者さんの死亡原因を詳しく調べる検査です。剖検数が多い病院は死亡原因解明のためにしっかりと取り組んでいるということも示しますが、ご遺族にとって複雑な思いを喚起させる検査でもあり、解釈には注意が必要です。
<b>【手術】</b>							
<a href="#">施設基準に掲げる手術件数(※4)</a>					平成28年度	医科点数表第2表第10部手術の通則の5及び6に掲げる手術の件数(平成28年1月から12月までの件数)	難易度及び診療報酬上の点数単価が高い手術について、1年間に実施した件数です。
入院手術件数	3,076	3,389	3,390	件	平成28年度		
日帰り手術患者数	-	-	-	人	平成28年度	※ここでの日帰り手術患者数は、入院基本料を算定しており、手術施行した患者で在院日数1日の患者数をいう。	
全身麻酔件数	2,610	2,897	2,908	件	平成28年度		
硬膜外併用脊髄くも膜下麻酔	0	0	0	件	平成28年度		
硬膜外麻酔	0	0	0	件	平成28年度		
脊髄くも膜下麻酔	277	303	292	件	平成28年度		
伝達麻酔	0	0	0	件	平成28年度		
その他の麻酔	189	189	190	件	平成28年度		
<b>【医療安全】</b>							
医療事故発生件数	64	76	76	件	平成28年度	公表基準による医療事故(レベル3b以上)の年間件数 レベル3b: 濃厚な処置や治療を要した事例 レベル4: 患者に永続的な障害が残った事例 レベル5: 死亡(原疾患の自然経過によるものを除く。)	医療に関する透明性を高めるため、府立5病院では、共通の公表基準にもとづき、医療事故を公表しています。

## 大阪国際がんセンター 《基本情報》

基本情報	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	収集期間	定義	備考
<b>【その他】</b>							
研修医受入れ人数	4	5	4	人	平成28年度	各月1日における人数の平均 <単独型臨床研修病院>	病院として、医師の教育に積極的に取り組んでいるかを示しています。
レジデント受入れ人数	37	33	41	人	平成28年度	各月1日における人数の平均	
指導医数	64	59	85	人	平成28年 4月現在	※指導医は、臨床研修病院の基準にあるように、5年以上の臨床経験を有するものであって、プライマリケアを中心とした指導を行うことができる経験及び能力を有している者(H28. 4月1日現在届出数)	
医療相談件数	12,391	13,127	12,698	件	平成28年度	医療相談室等で受けた相談件数(医療相談の専任者が実施する場合を含む)	専門の職員による医療や社会保障制度等に関する相談、支援の体制を示しています。
医療相談件数のうち医療ソーシャル ワーカーが受けた件数	11,604	9,786	7,374	件	平成28年度		
セカンドオピニオン件数	737	807	800	件	平成28年度	新規相談件数	
患者対看護職員数	7対1	7対1	7対1		平成28年度	看護体制	看護体制の充実度を示しています。
認定看護師数	14	14	17	人	平成28年度	日本看護協会が定める認定看護師の有資格者数(H29.3.31現在)	
専門看護師数	4	5	5	人	平成28年度	日本看護協会が定める専門看護師の有資格者数(H29.3.31現在)	
継続看護の実施件数	98	81	119	人	平成28年度	在宅療養指導料算定実患者数	在宅での療養支援に積極的に取り組んでいるかを示しますが、病院の扱い疾患の特徴にも左右されます。
実務実習認定薬剤師	10	10	11	人	平成28年度	薬学教育協議会が定める長期実務実習指導薬剤師の有資格者(H29.3.31現在)	
がん専門薬剤師	6	6	6	人	平成28年度	日本病院薬剤師会が定めるがん専門薬剤師の有資格者 日本医療薬学会が定めるがん専門薬剤師の有資格者(H29.3.31現在)	
がん薬物療法認定薬剤師	4	3	3	人	平成28年度	日本病院薬剤師会が定めるがん薬物療法認定薬剤師の有資格者(H29.3.31現在)	
院外処方箋率	88.2	87.9	87.0	%	平成28年度	院外処方箋枚数/外来処方箋枚数×100	医薬分業に積極的に取り組んでいるかを示しています。ただし、まれな疾患にしか使わない薬を多く処方される病院もあります。
診療情報の開示件数	47	55	85	件	平成28年度	年間の総開示件数	
治験新規契約件数	116	124	33	件	平成28年度	※「治験契約件数」はプロトコル数。また、新規契約と以前からの契約件数(複数年度契約の場合)を合計した数【DPC研究班定義】	臨床試験に積極的に取り組み、新しい治療法、新薬の開発に貢献しているかを示しています。
クリニカルパス種類数	319	338	330		平成28年度		
クリニカルパス適用率	78.3	74.8	75.0	%	平成28年度	クリニカルパス適用患者数/新入院患者数×100	医療の標準化に積極的に取り組んでいるかを示しています。ただし、高度な医療を提供する病院では適用が難しい場合も多くあります。
放射線治療件数	28,399	28,916	30,356	件	平成28年度		
CT撮影件数	28,493	28,372	28,008	件	平成28年度		
MRI撮影件数	9,774	11,394	10,815	件	平成28年度		
職員のインフルエンザワクチン接種率	77.4	77.4	87.5	%	平成28年度	自施設でインフルエンザワクチンを接種した職員数(分子)/院内職員対象インフルエンザワクチン接種を開始した月の初日に在職している非常勤職員を含む病院職員数(派遣職員を除く)(分母)×100	インフルエンザワクチンを接種した職員の割合を示します。
職員の健診受診率	100	100	100	%	平成28年度	事業所健診の受信者数(分子)/健診対象職員数(4月時点)(分母)×100	健康診断を受診した職員の割合を示します。

※1 年齢階層別退院患者数 【平成28年度】

年齢階層	退院患者数	(うち死亡患者数)
28日未満	0	0
1歳未満	0	0
10歳未満	0	0
20歳未満	65	1
30歳未満	143	1
40歳未満	486	6
50歳未満	1,195	16
60歳未満	1,897	21
70歳未満	3,806	51
80歳未満	3,459	41
80歳以上	784	15

※入院患者:期間中の退院患者

※年齢は退院時年齢による

※人間ドックは除く

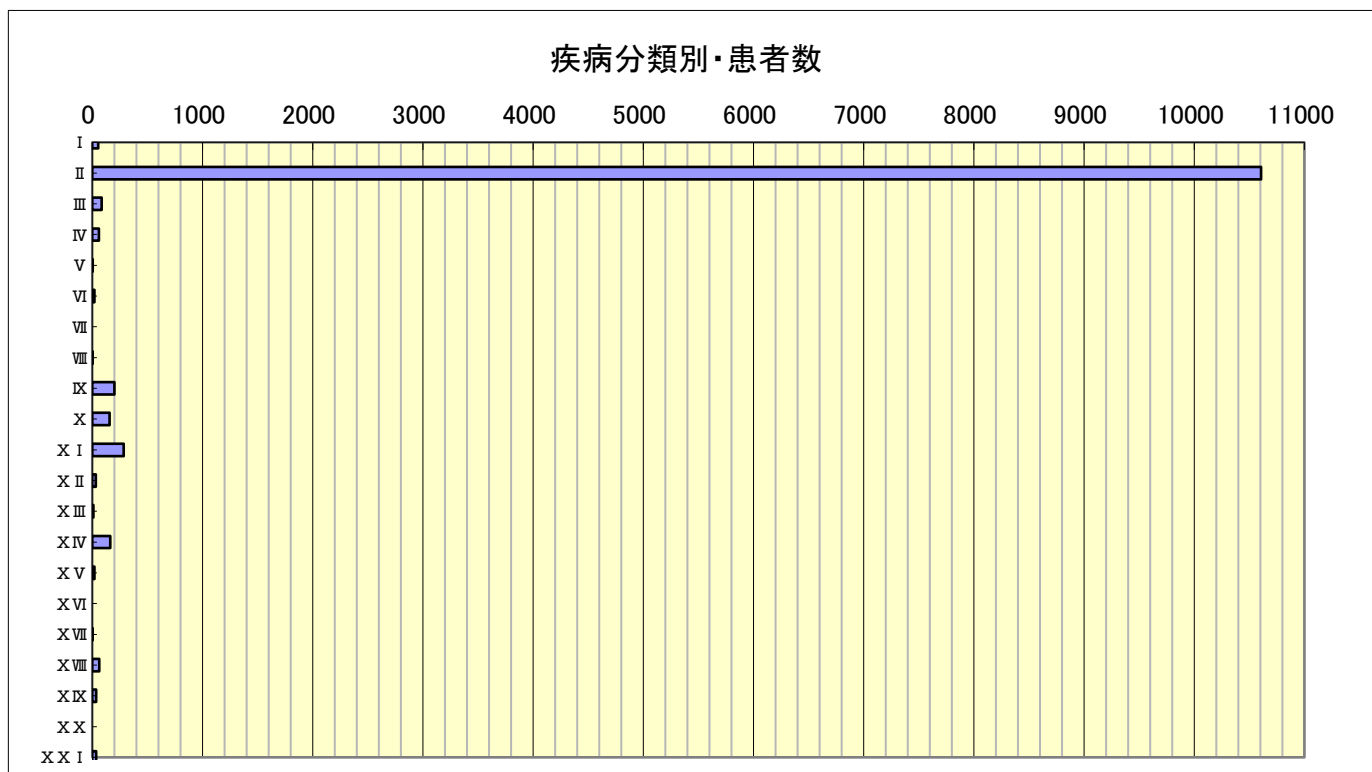
※2 主要疾患別患者数  
(期間中の退院患者数上位20)

ICD10	病名	退院患者数
C34	気管支及び肺の悪性新生物	1,282
C16	胃の悪性新生物	931
C15	食道の悪性新生物	829
C25	膵の悪性新生物	783
C50	乳房の悪性新生物	753
C61	前立腺の悪性新生物	428
C18	結腸の悪性新生物	362
C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物	352
C54	子宮体部の悪性新生物	311
C20	直腸の悪性新生物	287
C56	卵巣の悪性新生物	275
D12	結腸, 直腸, 肛門及び肛門管の良性新生物	258
C49	その他の結合組織及び軟部組織の悪性新生物	227
C67	膀胱の悪性新生物	222
C85	非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型	198
C78	呼吸器及び消化器の続発性悪性新生物	186
C79	その他の部位の続発性悪性新生物	177
C53	子宮頸部の悪性新生物	166
D48	その他及び部位不明の性状不詳又は不明の新生物	126
D37	口腔及び消化器の性状不詳又は不明の新生物	118
総計		11,835

※人間ドックは除く

### ※3 疾病分類別患者数・平均在院日数

	分類	患者数	平均在院日数
I	感染症及び寄生虫症(A00-B99)	54	12.6
II	新生物(C00-D48)	10608	14.0
III	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害(D50-D89)	84	11.6
IV	内分泌、栄養および代謝疾患(E00-E90)	59	13.0
V	精神および行動の障害(F00-F99)	5	7.6
VI	神経系の疾患(G00-G99)	18	13.6
VII	眼および付属器の疾患(H00-H59)		
VIII	耳および乳様突起の疾患(H60-H95)	3	5.7
IX	循環系の疾患(I00-I99)	201	30.8
X	呼吸系の疾患(J00-J99)	158	15.3
X I	消化系の疾患(K00-K93)	285	14.2
X II	皮膚および皮下組織の疾患(L00-L99)	32	12.5
X III	筋骨格系および結合組織の疾患(M00-M99)	11	18.0
X IV	尿路生殖系の疾患(N00-N99)	162	8.0
X V	妊娠、分娩および産褥(O00-O99)	20	5.3
X VI	周産期に発生した主要病態(P00-P96)		
X VII	先天奇形、変形、および染色体異常(Q00-Q99)	3	14.0
X VIII	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見(R00-R99)	62	10.7
X IX	損傷、中毒およびその他の外因の影響(S00-T98)	35	21.7
X X	傷病および死亡の外因(V01-Y98)		
X X I	健康状態に影響を及ぼす要因および保健サービスの利用(Z00-Z99)	35	12.2



※4 施設基準に掲げる手術件数  
(医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6に掲げる手術)

区分1に分類される手術		手術件数
ア	頭蓋内腫瘍摘出術等	83
イ	黄斑下手術等	0
ウ	鼓室形成手術等	0
エ	肺悪性腫瘍手術等	286
オ	経皮的カテーテル心筋焼灼術	0

区分2に分類される手術		手術件数
ア	靭帯断裂形成手術等	30
イ	水頭症手術等	7
ウ	鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	3
エ	尿道形成手術等	39
オ	角膜移植術	0
カ	肝切除術等	209
キ	子宮附属器悪性腫瘍手術等	42

区分3に分類される手術		手術件数
ア	上顎骨形成術等	0
イ	上顎骨悪性腫瘍手術等	111
ウ	バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	0
エ	母指化手術等	0
オ	内反足手術等	0
カ	食道切除再建術等	75
キ	同種死体腎移植術等	0

区分4に分類される手術		手術件数
胸腔鏡下または腹腔鏡下による手術		616

その他の区分に分類される手術		手術件数
ア	人工関節置換術	8
イ	乳児外科施設基準対象手術	—
ウ	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	0
エ	冠動脈、大動脈バイパス移植術(人工心肺を使用しないものを含む。)及び体外循環を要する手術	0
オ	経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈粥腫切除術及び経皮的冠動脈ステント留置術	53

※1 手術件数は、平成28年1月から同年12月までの1年間の実績